

B) 場所を限定して局所的な防除を進める種類

アカギ

トウダイグサ科 *Bischofia javanica*

原産地：沖縄諸島、台湾、中国南部、東南アジア、ポリネシア、オーストラリア

生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種(国内由来)

特徴

成長が早い樹木で、成長すると高さ 15～25m に達する。全体に赤褐色をしていることから、アカギの名前に。街路樹、防風林として植えられていた。

葉 : 卵形で縁にギザギザ(鋸歯)のある小葉 3 枚で一枚の葉を構成する。

花 : 春に黄緑色の細かい花を大量に咲かせる。

繁殖 : 秋から冬にかけて、直径 1cm 程度の茶色の実を大量につける。



影響 : 在来植生との競合が懸念される他、成長の早い高木であることから景観を大きく改変させてしまう。

侵入状況 : 奄美大島中の市街地、集落周辺で侵入が確認されている。一部、山域でも公園等を中心に植栽等で侵入が確認されており、逸出・分布拡大が懸念される。

対策状況 : 具体的な対策は実施できていない。

防除のコツ : 大きくなると駆除が困難になるため、できる限り幼株のうちに駆除を実施したい。抜き取りが困難な株はノコギリ、チェーンソー等で伐採を行う。除草剤注入などの方法も考えられる。